

《担当者名》太田亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

周産期、出生から思春期に至るまで、さまざまな体の成長に伴う変化があり、感染症などの外部からの侵襲、遺伝的要因など原因を理解し、小児特有の疾患に対応できる知識を身につける。

【学修目標】

【一般目標】

医療従事者としての、小児の患者に接したとき、その疾患に適切な対応ができるようになる、次のような医療知識を身につける。

【行動目標】

1. 出生から、新生児期、乳児期、幼児期、学童期に運動、知能発達のマイルストーンが説明できる。
2. 小児の栄養・バイタルサインが説明できる。
3. 周産期・新生児期特有の疾患が列挙できる。その疾患の将来の影響が説明できる。
4. 先天奇形・染色体異常が説明できる。
5. 小児期の感染症の種類・症状・治療が説明できる。
6. 小児期の免疫異常、代謝異常が説明できる。
7. 小児期の内分泌疾患、思春期に移行する際の異常が説明できる。
8. 小児独特の腎臓疾患が説明できる。
9. 小児の神経疾患、筋疾患が説明できる。
10. 自閉症・多動症、アスペルガー症候群が説明できる。
11. 小児の救急性疾患が説明できる。
12. 小児の死因・疾患の頻度が説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	小児の成長と発達	小児の身体の成長・発達・栄養	太田亨
2	新生児	新生児医療・新生児疾患(1)	太田亨
3	新生児・先天異常	新生児疾患(2)・染色体異常	太田亨
4	先天異常	染色体異常・遺伝性疾患	太田亨
5	感染症	ウイルス感染症	太田亨
6	感染症	細菌感染症・予防接種	太田亨
7	免疫異常・アレルギー疾患	免疫不全・喘息・アトピー性皮膚炎など	太田亨
8	呼吸器疾患・循環器疾患	クループ症候群・肺炎・喘息性気管支炎など・胎児循環・先天性心奇形	太田亨
9	代謝性疾患	先天性代謝異常・小児の糖尿病・低血糖	太田亨
10	内分泌疾患	低身長・思秋期早発症・甲状腺機能異常・尿崩症	太田亨
11	腎疾患・尿路系疾患・血液・悪性腫瘍・中毒・救急医療	小児の急性腎炎・慢性腎炎、先天性の腎・尿路系異常・白血病・小児の悪性腫瘍・誤飲・溺水	太田亨
12	神経	脳性麻痺・発達異常・痙攣性疾患・筋肉疾患・自閉症	太田亨

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

白木和夫 他 編 「ナースとコメディカルのための小児科学」 小児医事出版社 2014年

【参考書】

西 基、他：『New Simple Step小児科』 総合医学社

【備考】

Google FormやManaba を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておくこと。(80分)

復習は、講義項目のプリント内容を記憶すること。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP3) 言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

(DP4) 関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。